

令和6（2024）年度

社会教育における「対面型」と「オンライン型」の
研修による学習効果に関する調査研究

報告書

栃木県総合教育センター

はじめに

昨今、教育をめぐる社会の状況は、人口減少・高齢化、地域コミュニティの変化、感染症等の拡大、技術革新等により大きく変化しています。このような中で、人々が生涯を通じて目標や生きがいをもって生きられる社会、持続可能な社会の実現のためには、生涯学習の機会の充実や地域住民同士のつながりづくりがより一層求められています。

栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」では、「めざすとちぎの将来像」として「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」を掲げています。この実現に向けて設定された重点戦略の1つの柱として「人材育成戦略」が位置づけられています。県民一人一人があらゆる機会にあらゆる場所で学習でき、その成果を適切に生かすことができるよう、学習機会の提供や学習環境の充実といった「生涯学習・社会教育推進体制」を整備・拡充することは、県の目指す将来像の実現に向けた重要な取組の一つです。

栃木県教育委員会では、「教育振興基本計画 2025ーとちぎ教育ビジョンー」の基本施策13の主な取組として、「生涯学習推進の基盤づくり」、「生涯にわたる学びの機会の充実」、「学びを生かした地域づくりの促進」を挙げ、「これまでの対面式の講座提供に加え、ICTを活用したオンライン講座の実施」、「多様な学習機会の提供」、「主体的に地域で活動する人材の育成」等に言及しています。

栃木県総合教育センターでは、コロナ禍を契機に、対面での研修に加えオンラインを利用した研修を実施していますが、生涯学習研修においては、知識やスキルの習得のみならず、「他者と連携・協働しながら主体的に社会に参画できる人づくり」のため、受講者同士のつながりづくりも重視しています。今後、充実した生涯学習研修を実施するには、対面型研修とオンライン型研修の利点と課題を明らかにし、研修の実施方法をその内容や目的に応じ対面とオンラインで適切に使い分ける必要があります。

本報告書では、当センターで実施している生涯学習研修における対面型研修とオンライン型研修の学習効果を明らかにすることで、今後の研修の実施の在り方について考えるための資料としてまとめました。

当センターといたしましては、今回の調査を基に、研修事業や市町等への支援活動の充実に取り組んでいきたいと考えております。また、関係機関の皆様におかれましても、今後の研修事業に役立ていただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査研究を進めるにあたり、御指導と御助言を賜りました大分大学大学院教育学研究科（教職大学院） 教授 清國 祐二氏に深く感謝申し上げます。

令和7（2025）年3月

栃木県総合教育センター 所長 大高 栄男

目次

はじめに	1
第1章 調査研究の背景と目的	3
第2章 質問紙調査の実際	4
1 調査の方法等	4
2 質問紙調査の結果	7
(1) 基本属性	7
(2) 学習環境	8
(3) 受講方法（対面・オンライン）に関する受講者の意識	10
(4) 学習効果について	11
(5) 受講方法に関する受講者の指向（評価）について	13
(6) 学びや受講者同士のつながりの活用について	14
第3章 調査の分析・考察	15
1 調査の分析と考察	15
(1) 受講者の基本属性について	15
(2) 学習環境について	15
(3) 受講方法に関する受講者の意識の分析から	19
(4) 学習効果について	19
(5) 受講方法による受講者の指向（評価）について	20
第4章 まとめ	22
参考・引用文献、参考資料	

第1章 調査研究の背景と目的

教育基本法第3条において、生涯学習の理念として「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されている。

令和4年の第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理では、デジタル技術を活用した学習の重要性が確認され、学習活動に関するデジタル化・オンライン化の取組の進展が、社会的包摂の実現に有用であることが示された。

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、社会教育においてもオンライン型の研修実施が一般的になり、当センター生涯学習部でも、対面・オンライン（当センター生涯学習研修において実施するオンライン型研修は、ライブ配信型（同時双方向型）で実施。オンラインでの配信は、オンライン会議システムのZoomを利用。）それぞれの形式を組み合わせる研修が実施されている（表1）。オンライン型研修については、資料の事前配付、見え方や音声の確認、ブレイクアウトルーム（参加者を少人数のグループに分けてグループワーク等を行える機能）の活用等により、対面とのギャップを少なくするよう配慮しているが、「オンラインでも対面での研修と同等の学習効果が得られるか」、「社会教育において重要な『人のつながりづくり』についての効果に違いはあるか」ということを課題として認識しており、両者の課題を整理し、利点を最大限に引き出すためには、具体的な調査と分析が必要であると考えた。

そこで本研究では、対面型研修とオンライン型研修の学習効果（特に、社会教育において重要な「人のつながりづくり」に焦点を当てる）を比較し、両者の利点と課題を明らかにする調査を実施することで、今後の研修の実施形態の在り方について考えることを目的に調査研究を実施した。

表1 令和6年度の生涯学習部の研修と開催方法（実施形態）等一覧

No	研修名	総日数	主研修の開催方法（実施形態）			ライフアップセミナー 対象（オンライン） ※2	備考
			対面	オンライン	ハイフレックス ※1		
1	女性教育指導者研修	7	7	0	0	1	
2	家庭教育オピニオンリーダー研修	6	5	0	1	2	第1回を合同で開催
3	家庭教育支援プログラム指導者研修	5	4	0	1	1	
4	地域づくりを考える！青少年ボランティアセミナー	2	1	0	1	1	第1回を合同で開催
5	地域づくりを考える！ボランティアスタートアップセミナー	2	1	0	1	1	
6	学びによる地域づくり実践セミナー	4	3	0	1	1	
7	地域学校協働活動推進員養成研修	5	5	0	0	4	
8	生涯学習・社会教育関係職員研修	4	3	1	0	2	
9	人権教育指導者専門研修	5	5	0	0	0	
10	地域連携教員研修	1	1	0	0	1	
11	新任地域連携教員研修	1	0	1	0	0	オンライン半日、オンデマンド半日
12	コミュニティ・スクール推進研修	3	3	0	0	2	
13	地域学校協働活動推進員パワーアップ講座	3	3	0	0	1	
14	ファシリテーションパワーアップ講座	3	3	0	0	1	
15	コーディネーションパワーアップ講座	3	3	0	0	3	
16	生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座	3	1	1	1	1	
17	地域づくりスキルアップセミナー	1	1	0	0	0	
18	家庭教育・子育て支援課題解決セミナー	1	1	0	0	1	
19	放課後活動指導者研修	2	1	0	1	2	
20	生涯学習・社会教育関係職員のためのICT活用セミナー	2	2	0	0	0	
21	連携へのカギ～公民館の次なるステージへ～	1	1	0	0	1	
合 計		64	54	3	7	26	

※1 「ハイフレックス」は、対面型・オンライン型のいずれかを受講者が選択して受講するもの。

※2 「ライフアップセミナー」は、当センターが主催する各種研修の一部を県民一般に公開しているもので、受講者はオンラインで受講した。

第2章 質問紙調査の実際

1 調査の方法等

(1) 調査概要

当センター生涯学習部で実施する生涯学習研修の受講者を対象とし、対面型研修とオンライン型（ライブ配信型）研修の学習効果について調査し、当センター生涯学習部における今後の研修の実施形態の在り方について考えるなど、生涯学習研修の充実に向けた基礎資料とする。

なお、受講者の「対面型」・「オンライン型」の受講方法による違いについての調査であり、講師の「対面型」・「オンライン型」の違いについては扱っていない。

(2) 調査内容

質問紙調査では、以下の項目について調査した。（資料「質問紙調査の内容」に、これらの詳細を示す。）

- ・基本属性（市町名、所属、年齢）
- ・学習環境
- ・学習効果（「人のつながり」に関する設問を含む）
- ・受講方法（対面型・オンライン型）に関する受講者の意識・指向（評価）
- ・学びや受講者同士のつながりの活用

(3) 調査対象

当センター生涯学習部で実施する今回の調査対象とした研修の受講者（延べ 505 名）。

6 月 20 日から 10 月 3 日の間に実施した対面型研修とオンライン型研修を兼ねている延べ 13 研修を対象に調査。調査対象とした研修名及び各研修の開催方法、受講者数は次表のとおり。なお、全ての研修がライフアップセミナー対象。

表2 調査対象の研修一覧

No	日 付	研修名	開催方法	受講者数		
			主研修	対面	オンライン	合 計
1	6月20日	家庭教育オピニオンリーダー研修・家庭教育支援プログラム指導者研修：AM	ハイフレックス	17	24	41
2	6月20日	家庭教育オピニオンリーダー研修・家庭教育支援プログラム指導者研修：PM	ハイフレックス	16	24	40
3	6月21日	地域学校協働活動推進員養成研修	対面	26	2	28
4	7月12日	コミュニティ・スクール推進研修	対面	54	5	59
5	7月17日	女性教育指導者研修	対面	4	8	12
6	7月19日	地域学校協働活動推進員養成研修	対面	21	4	25
7	8月3日	ボランティアセミナー※：AM	ハイフレックス	10	45	55
8	8月3日	ボランティアセミナー※：PM	ハイフレックス	9	44	53
9	8月28日	生涯学習・社会教育関係職員研修パワーアップ講座	ハイフレックス	0	16	16
10	8月29日	地域学校協働活動推進員養成研修	対面	27	4	31
11	9月18日	放課後活動指導者研修	対面（サテライト）	76	7	83
12	9月26日	地域学校協働活動推進員養成研修	対面	26	9	35
13	10月3日	家庭教育オピニオンリーダー研修	対面（サテライト）	17	10	27
合 計				303	202	505

※ No7 及び 8 の「ボランティアセミナー」は、合同で開催した「地域づくりを考える！青少年ボランティアセミナー」、「地域づくりを考える！ボランティアスタートアップセミナー」、「学びによる地域づくり実践セミナー」の総称。

- ・「開催方法」は、主研修の受講者の受講方法。
- ・「ハイフレックス」は、対面型・オンライン型のいずれかを受講者が選択して受講。
- ・「サテライト」は、本会場とサテライト会場をオンラインでつないで実施。サテライト会場でも演習などを対面型と同様に受講ができるため、本調査では対面型として扱う。
- ・ライフアップセミナーはオンラインでの受講となるため、開催方法が対面型でもオンライン型の受講者が発生する。

(4) 調査方法

ベースとなる調査紙の内容を基に、「学習効果（知識・理解、スキル、関心・意欲）」について、各研修主担当が研修の目的や内容に合わせて修正し、研修受講時に調査対象に質問紙を配布して研修終了直後に調査を実施した。午前・午後で研修内容が変わる場合は、それぞれの終了直後に実施した（オンライン型研修での参加者は、栃木県電子申請システムにより同様の内容を調査）。

(5) 回答数及び回答率

対面型研修	調査対象	303	回答数	296	回答率	97.7%
オンライン型研修	調査対象	202	回答数	168	回答率	83.2%
全体	調査対象	505	回答数	464	回答率	91.9%
※延べ数						

(6) 集計の処理

回答率（各回答の百分率比）は、小数第2位を四捨五入して表した。そのため、合計が見かけ上100%にならないことがある。

(7) 注意点

研修内容に合わせて「学習効果」についての質問内容を修正しているため、研修によっては、1つの調査紙の中で「知識・理解」に関する質問が2つある場合や、「スキル」に関する質問がない場合などがある。そのため、サンプル数が回答数より多くなっていることがある。

同一の人が複数の調査対象研修を受講したり、連続受講を要する研修中に複数回回答したりしているため、延べの回答数となっている。

(資料「質問調査の内容」) ※印は、オンライン受講者のみ回答

調査項目 (大分類)	調査項目 (小分類)	
学習効果 ※1	知識・理解	そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない
	スキル	そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない
	関心・意欲	そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない
	コミュニケーション	そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない
受講方法 (対面型・オンライン型) に関する受講者の指向 (評価)	研修の満足度	そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない
	要因	研修の内容と受講方法の親和性(相性・なじみやすさ)、学びの深まり、講師の進め方、モチベーション、講師とのコミュニケーション、受講者とのコミュニケーション、集中できる環境、達成感、安心感、労力(移動時間・費用等)に見合った学習効果、その他
学びや受講者同士のつながりの活用	今後の活動への活用	(自由記述)
受講方法 (対面型・オンライン型) に関する受講者の意識	対面型	(自由記述)
	オンライン型	(自由記述)
基本属性	市町名	〇〇市、〇〇町
	所 属	行政職員、教職員、地域活動実践者 (NPO 職員等も含む)、学生、その他
	年 齢	10 代、20 代、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代以上
学習環境	受講の方法	対面型、オンライン型
	ICT 機器に対する親和性	普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることはない。
	Zoom のスキル	ひととおりできる。又は得意である。 あまり自信がない。又は不得意である。
	受講のしやすさ	特に問題なく受講できた。 受講しにくかった。(理由を選択) 提示資料が見にくかった、音声聞き取りにくかった、機器等のトラブルがあった、その他
	使用端末 ※2	パソコン、タブレット等で参加、スマートフォン等で参加、大型のモニタ、スクリーン等に投影して参加
	休憩中のブレイクアウトルームの利用 ※2	利用した、利用しなかった
受講日時 ※2	研修日	(選択)
	受講時間	午前のみ、午後のみ、午前・午後両方 (選択)

※1 研修内容により、質問内容を修正

※2 オンライン型研修受講者のみ回答

2 質問紙調査の結果

(1) 基本属性

ア 回答者の居住地（市町別）

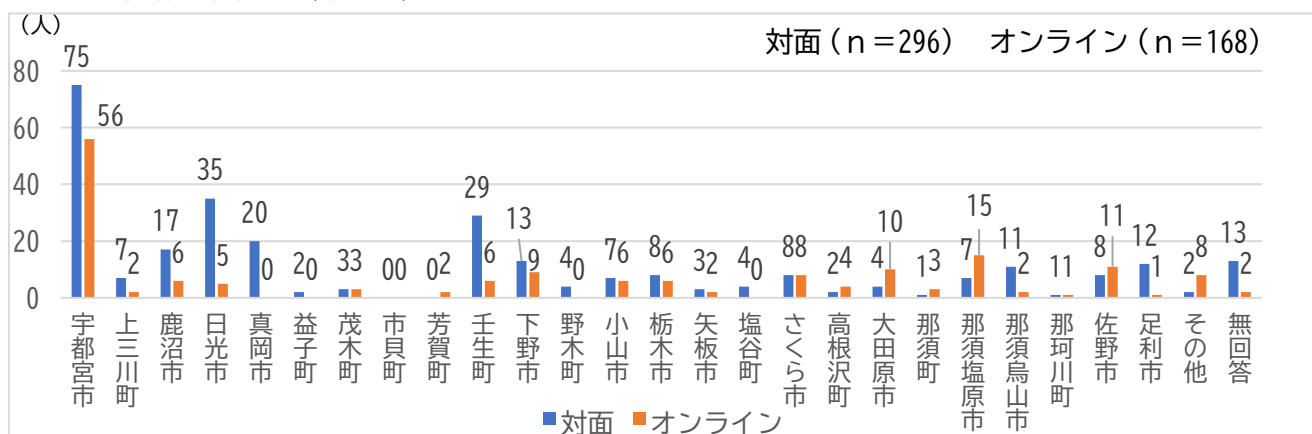


図1 回答者の居住地

・県内の様々な市町の方に回答をいただいた。

イ 回答者の所属等

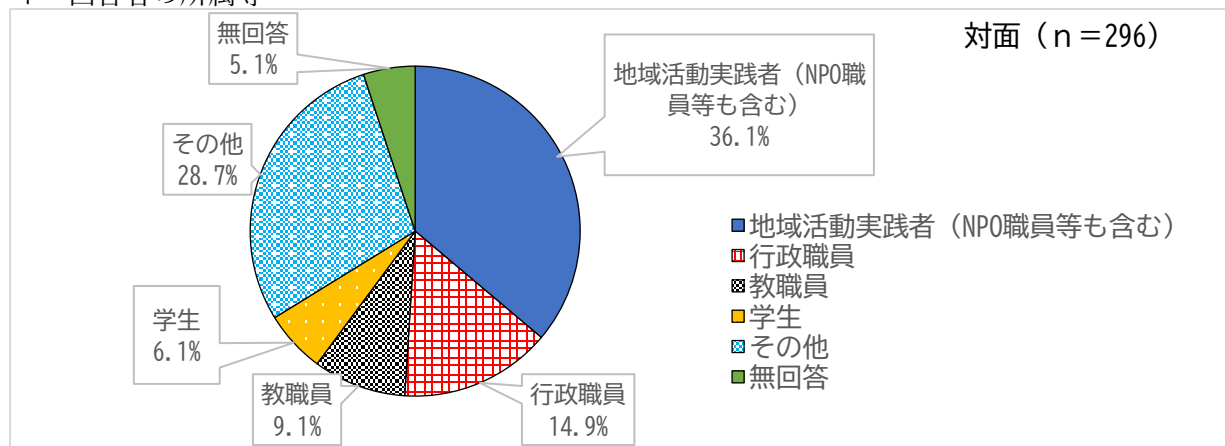


図2-1 回答者の所属（対面）

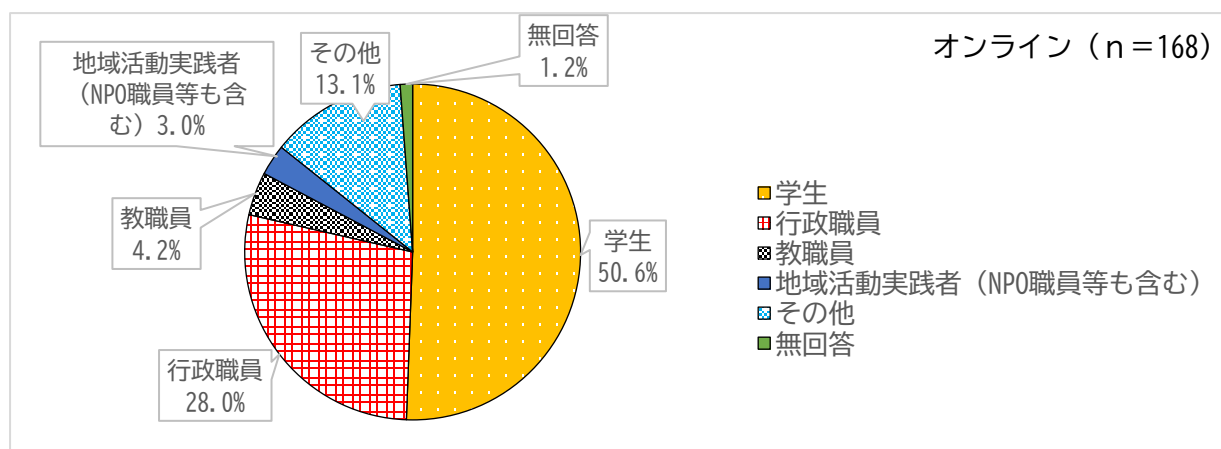


図2-2 回答者の所属（オンライン）

・対面型研修での受講者は地域活動実践者、オンライン型研修での受講者は学生が最も多い。

ウ 回答者の年齢

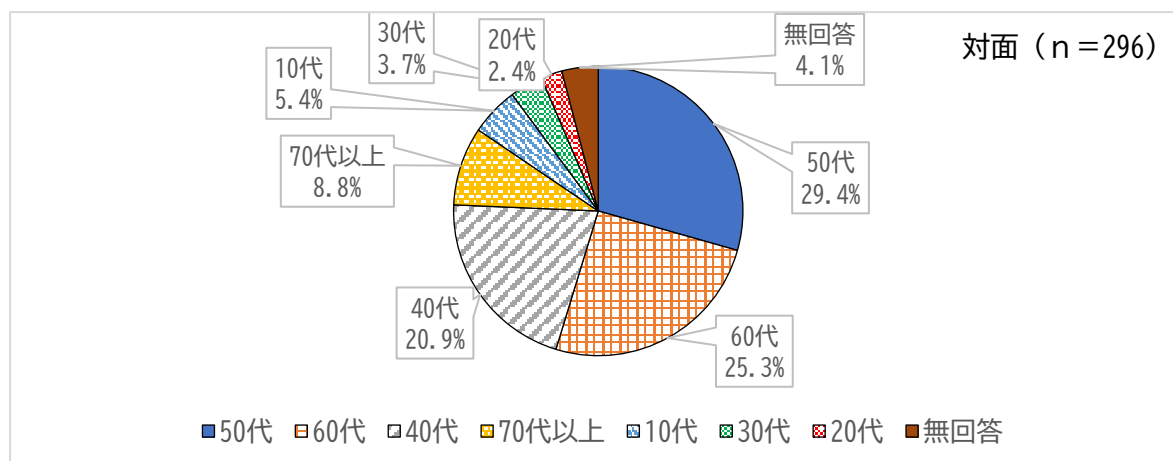


図3-1 回答者の年齢（対面）

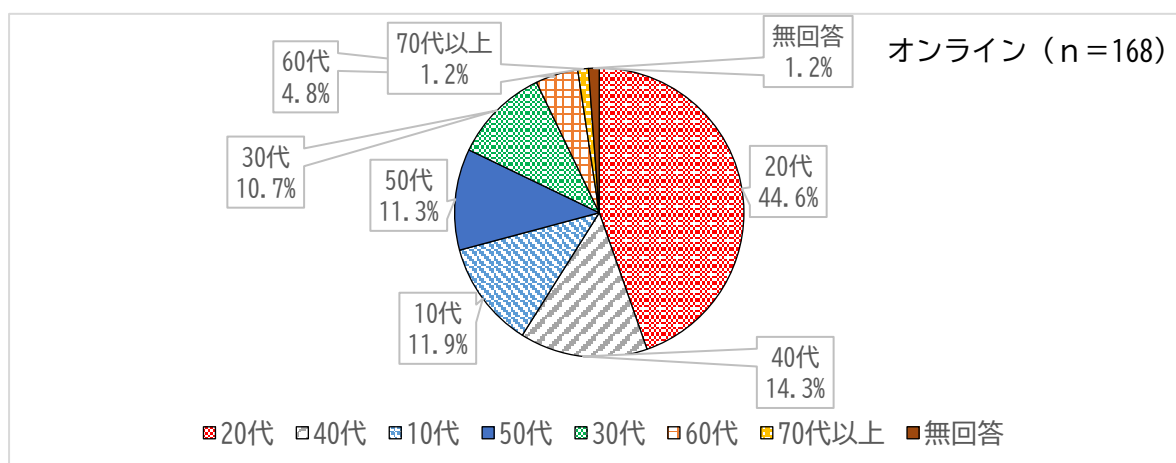


図3-2 回答者の年齢（オンライン）

- ・対面型研修での受講者は50代、オンライン型研修での受講者は20代が最も多い。

(2) 学習環境

ア ICT 機器に対する親和性

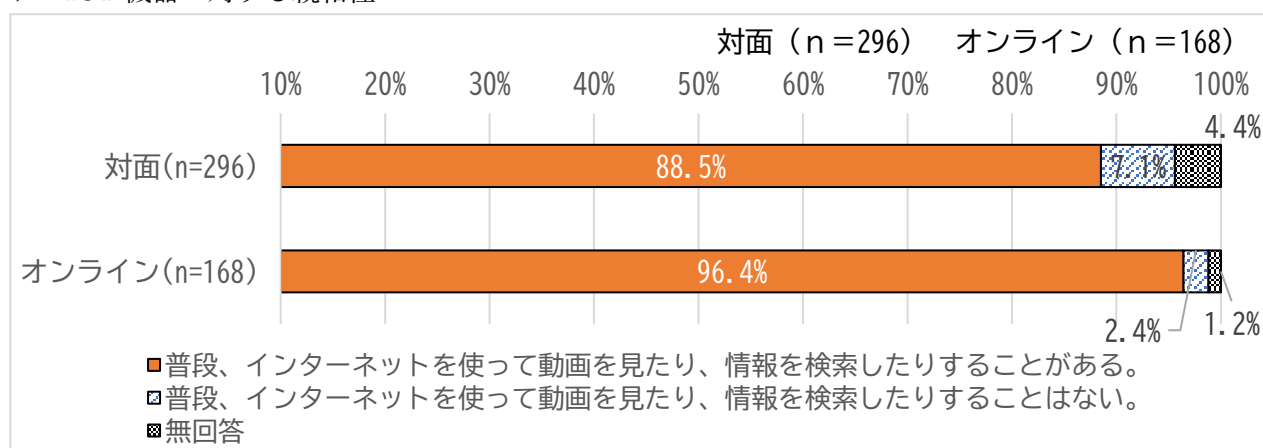


図4 普段のインターネットの利用

- ・対面型研修での受講者の88.5%、オンライン型研修での受講者の96.4%が、普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりしている。

イ Zoom のスキル

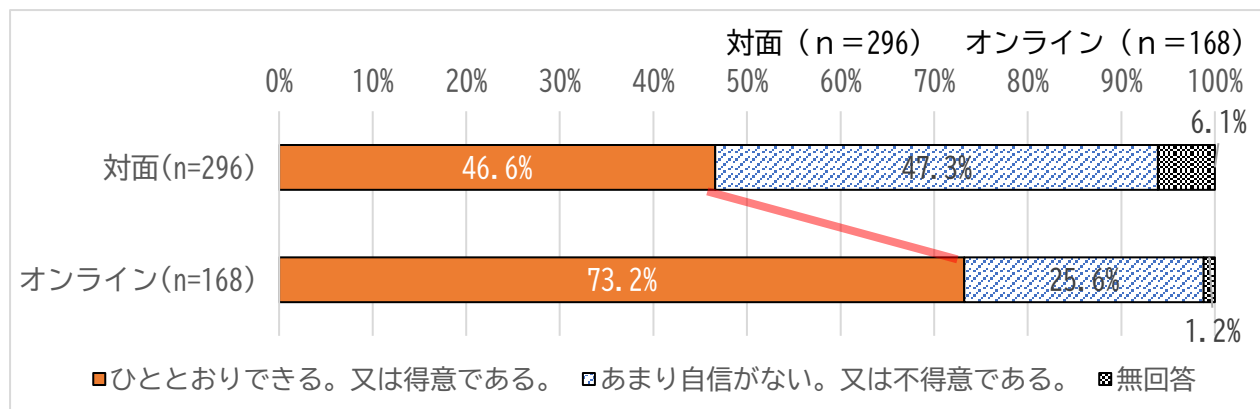


図5 Zoom のスキル

- ・対面型研修での受講者の 47.3%が、Zoom のスキルに「あまり自信がない。又は不得意である。」と回答している。

ウ 受講のしやすさ

※対面型研修受講者用のアンケートに不備があり、複数の研修で回答が得られなかった。そのため、ここに記載することを控え、回答が得られた研修について分析の方で扱うこととする。

エ 使用端末

オンラインでの受講者が受講するのに使用した端末は次のとおりである。

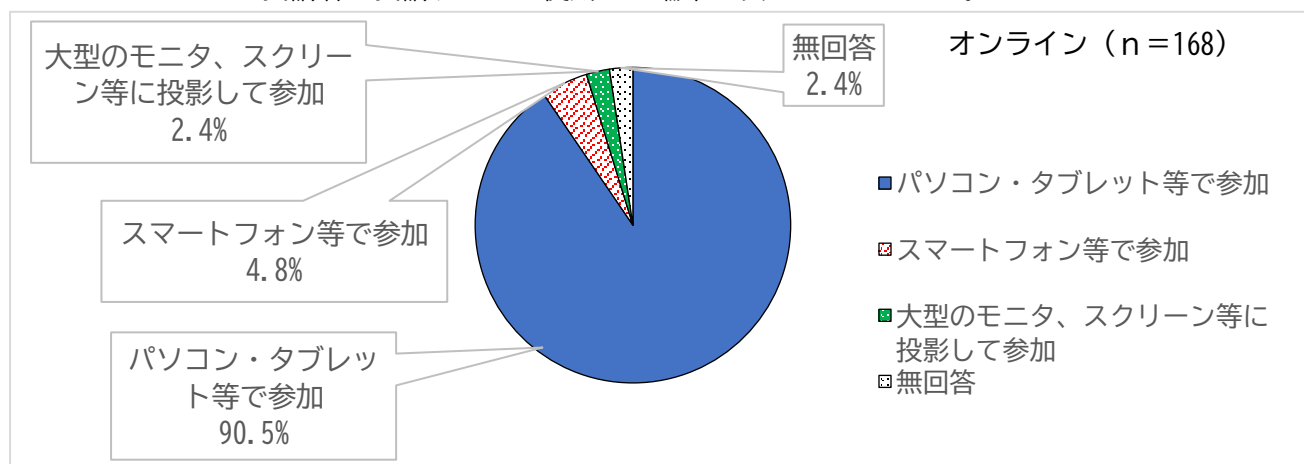


図6 オンラインでの受講者の使用端末

- ・パソコン、タブレット等での参加者が90%を超える。

オ 休憩中のブレイクアウトルームの利用

※研修の計画・運営に不備があり、複数の研修で休憩中のブレイクアウトルーム利用を実施することができなかったため、ここに記載することを控える。

(3) 受講方法（対面・オンライン）に関する受講者の意識

対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

ア 対面での研修、オンラインでの研修について、そのメリットとデメリットを受講者がどう感じているか、自由記述を分類し抜き出したところ、回答数は次のようになった。（受講者に、対面型研修とオンライン型研修についてそれぞれ回答を求めた。自由記述から、それぞれのメリット・デメリットについて抜き出してカウントした結果となっている。）

【表3】対面型研修とオンライン型研修のメリット・デメリット

		回答数 (n=464)
対面型研修	メリット	228
	デメリット	44
オンライン型研修	メリット	148
	デメリット	86

イ それぞれ多かった意見は次のとおりである（記述の内容を要約し、多い順に提示 カッコ内は回答数）。

(ア) 対面型研修のメリット

- ・コミュニケーションが取りやすい、つながりづくりがしやすい。(104)
- ・場の雰囲気（空気感）、熱量を感じやすい。(41)
- ・集中して受講できる。(26)
- ・学びの質・深まり・理解 (22)
- ・講師の話を直接聞くことができる。講師の雰囲気・熱量を感じる。(13)

(イ) 対面型研修のデメリット

- ・移動にかかるコスト（時間・距離・労力等）がかかる。(35)
- ・緊張感があり、疲れる。(3)
- ・予定・時間を取りにくい。(3)

(ウ) オンライン型研修のメリット

- ・移動にかかるコスト（時間・距離・労力等）がかからない。(68)
- ・受講しやすい方法、場所で受講できる。(39)
- ・リラックスして受講できる。集中できる。(18)
- ・手軽に受講できる。(13)

(エ) オンライン型研修のデメリット

- ・コミュニケーションが取りにくい、つながりづくりがしにくい。(18)
- ・会場の雰囲気、受講者の様子が感じにくい。(14)
- ・通信環境や機材のトラブル、タイムラグがあると受講しにくい。(10)
- ・オンラインが苦手なため受講しにくい。(10)
- ・緊張感がない、集中できない。(10)

(4) 学習効果について

研修の内容に関する質問項目の「関心・意欲」、「知識・理解」、「スキル」、「コミュニケーション」についてまとめた。前述の通り、「関心・意欲」、「知識・理解」、「スキル」については、研修内容に合わせて質問内容を修正し、特定の項目について2つの質問をしている場合があるため、各項目でのサンプル数は異なっている。

ア 「関心・意欲」

～により、～しようとする意識（意欲）が高まりましたか。

対面型研修では、10 研修でこの項目に関する質問をした。うち、質問を2つしている研修が1 研修。オンライン型研修では、9 研修でこの項目に関する質問をした。うち、質問を2つしている研修が1 研修。

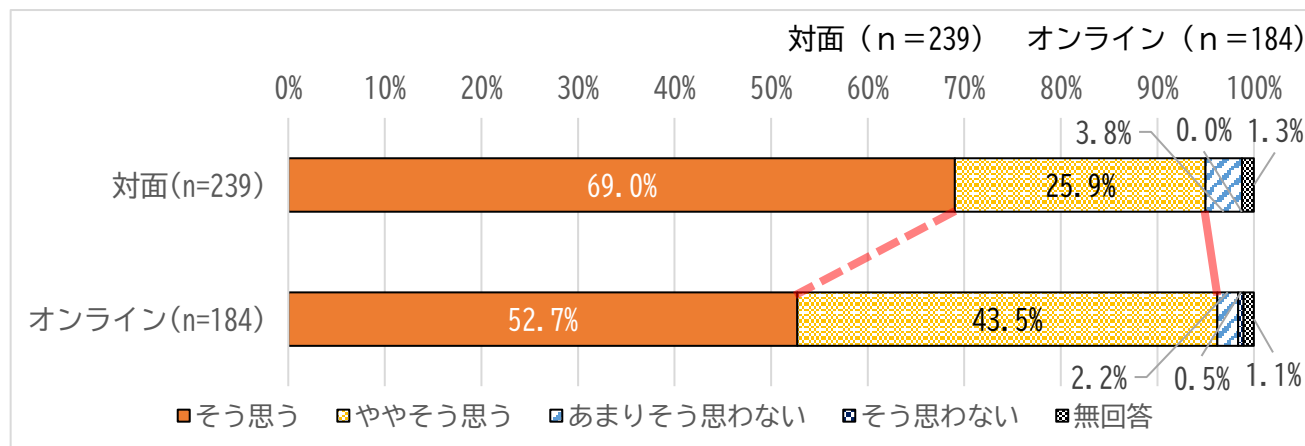


図7-1 関心・意欲を高める学習効果

- ・「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、対面型研修もオンライン型研修も大きな差は見られない。
- ・「そう思う」と回答した割合は、対面型研修の方が16.3ポイント高く、より「関心・意欲」が高まる傾向が見られた。

イ 「知識・理解」

～について知ることができましたか。～について理解を深めることができましたか。

対面・オンライン共に、全ての研修でこの項目に関する質問を行った。うち、質問を2つしている研修が2 研修。

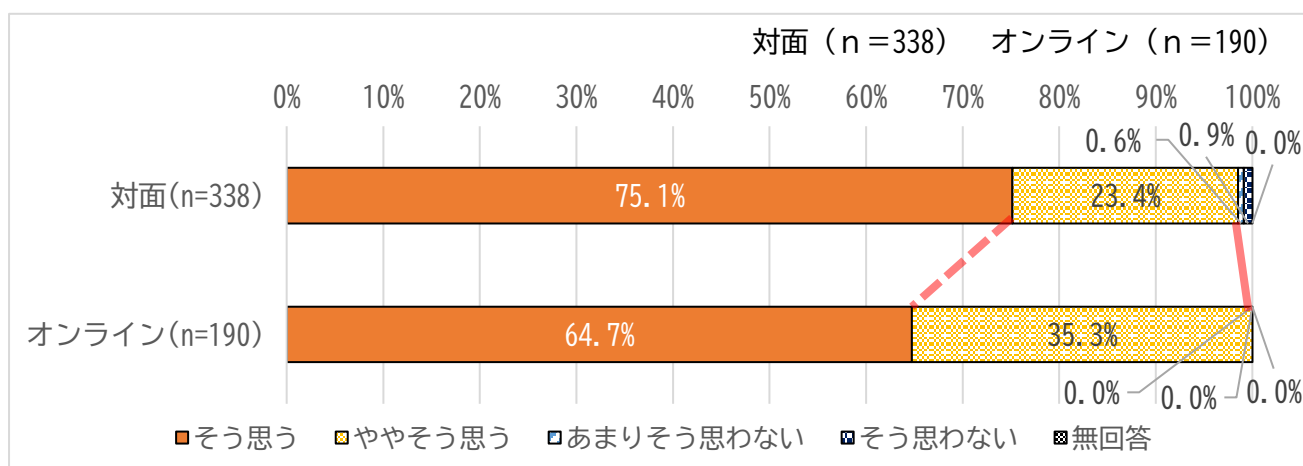


図7-2 知識・理解を深める学習効果

- ・「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、対面型研修もオンライン型研修も大きな差は見られない。
- ・「そう思う」と回答した割合は、対面型研修の方が 10.4 ポイント高く、より「知識」を得たり「理解」したりすることができたと感じる傾向が見られた。

ウ 「スキル」

～のスキルアップにつながりましたか。～について考えることができましたか。

対面型研修・オンライン型研修共に、2 研修でこの項目に関する質問を行った。

※オンライン受講者のサンプル数が少ないため、ここでは結果を提示するにとどめる。

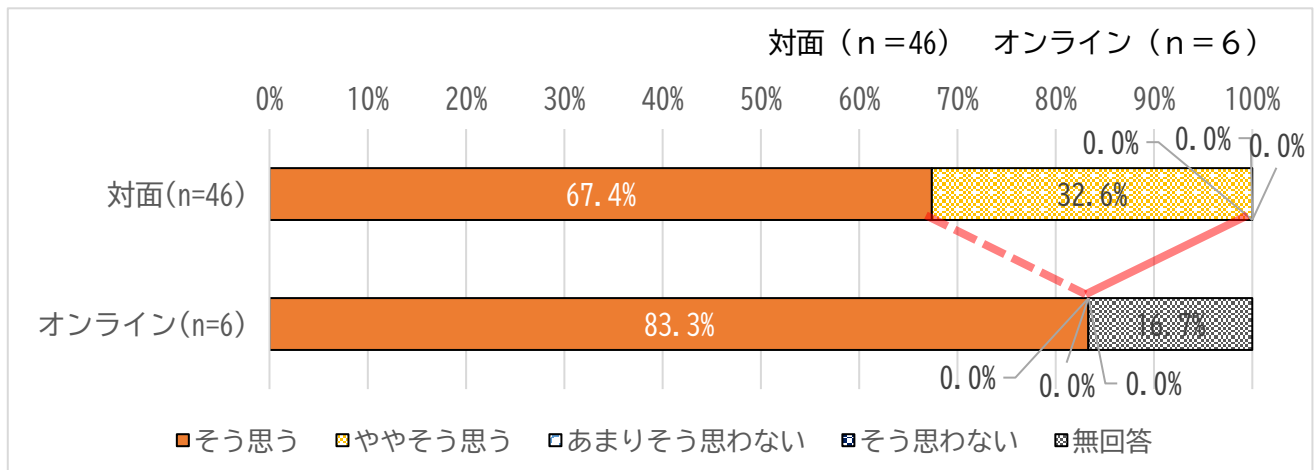


図 7-3 スキルを高める学習効果

エ 「コミュニケーション」

受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか（休憩中も含む）。

対面型研修・オンライン型研修共に、8 研修でこの項目に関する質問を行った。

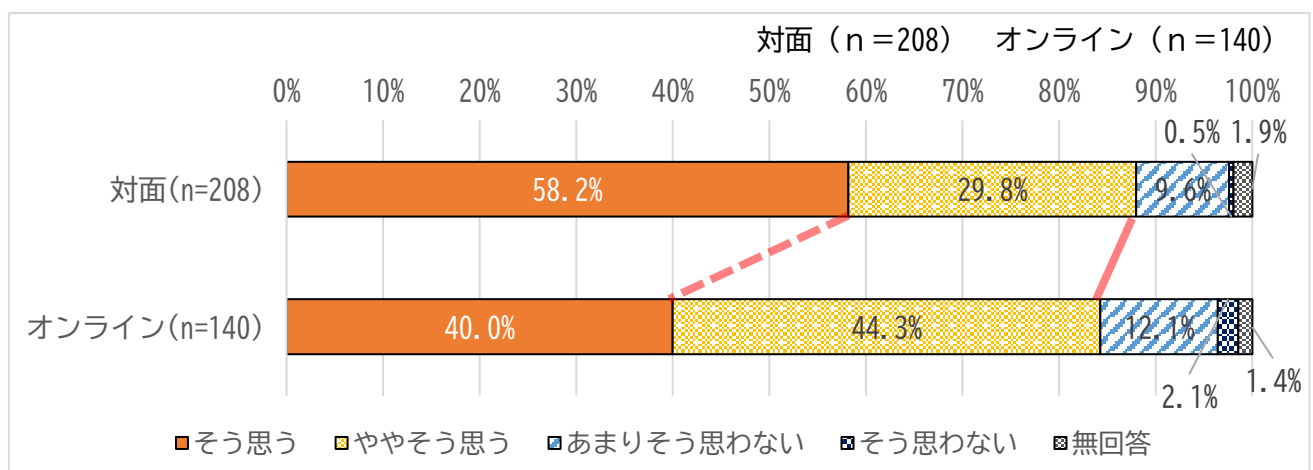


図 7-4 コミュニケーションを高める学習効果

- ・「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、対面型研修もオンライン型研修も大きな差は見られない。
- ・「そう思う」と回答した割合は、対面型研修の方が 18.2 ポイント高い。対面型研修の方がより「受講者同士のコミュニケーションが十分に取れた」と感じる傾向が見られた。

(5) 受講方法に関する受講者の指向（評価）について

ア 受講方法（対面・オンライン）による研修の満足度

あなたが選択した（本日の）学習方法（対面・オンライン）によって、満足できる研修になりましたか。

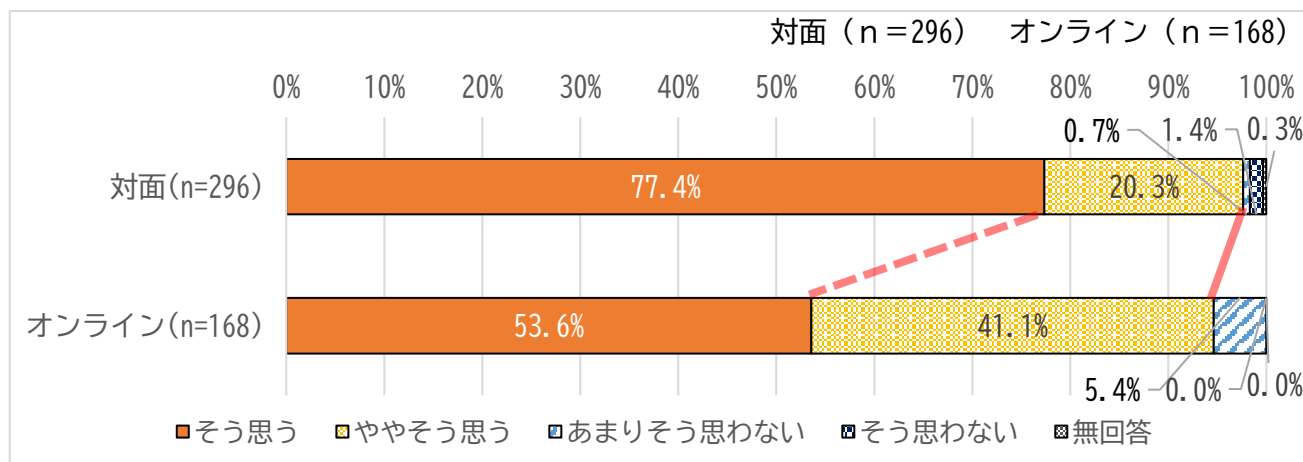


図8 受講方法（対面・オンライン）による研修の満足度

- ・「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、対面型研修は97.7%、オンライン型研修は94.7%である。対面型研修もオンライン型研修もおおむね満足できる研修であったといえる。
- ・対面型研修の方が「そう思う」と回答した割合が23.8ポイント高く、より満足度が高いことが分かる。

イ アで「そう思う」と回答した要因

それは、何によるものですか。下記ア～シの当てはまるもの全てに○を付けてください。

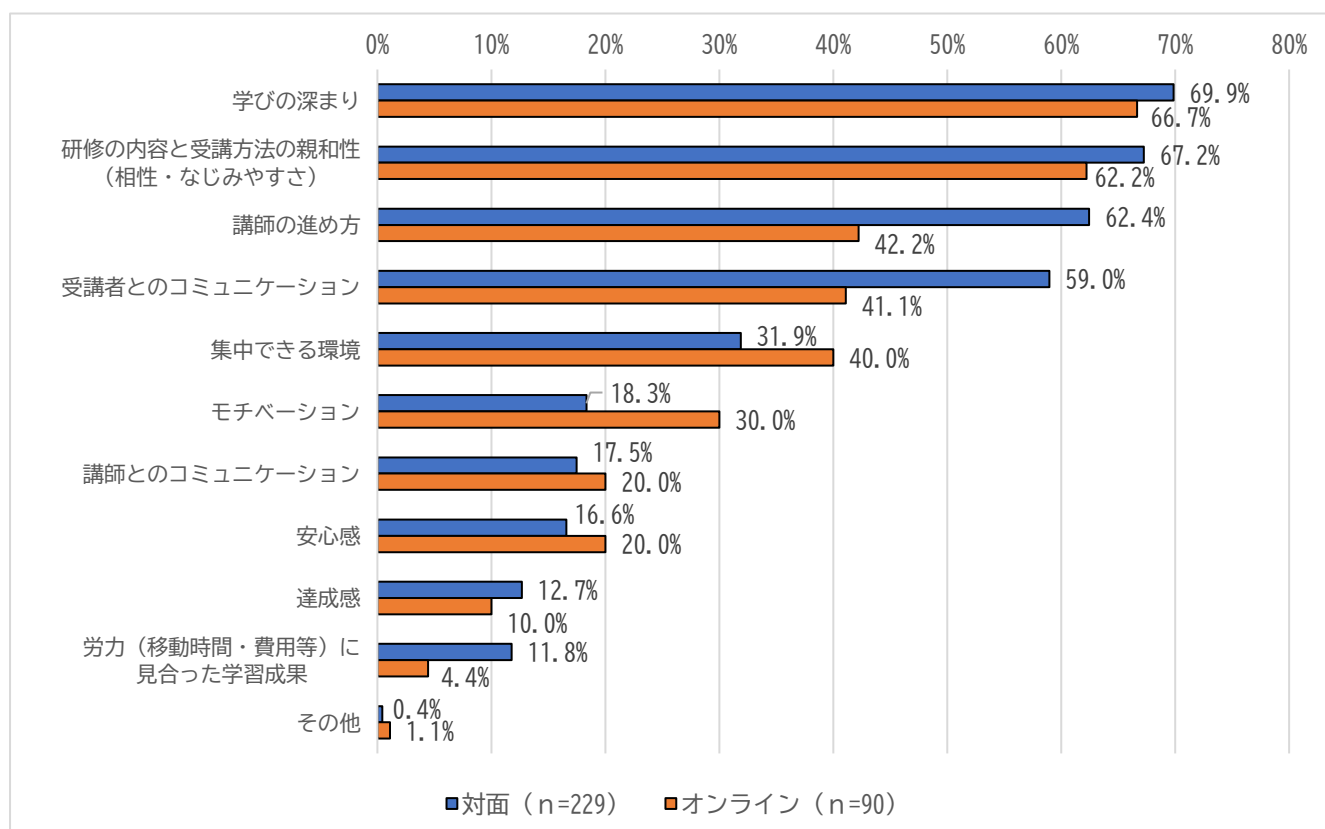


図9 「そう思う」と回答した要因

- ・対面型研修で「そう思う」と回答した人が挙げた要因の上位が、「学びの深まり」(69.9%)、「内容と受講方法の親和性(相性・なじみやすさ)」(67.2%)、「講師の進め方」(62.4%)、「受講者とのコミュニケーション」(59.0%)である。
- ・オンライン型研修で、「そう思う」と回答した人が挙げた要因の上位が、「学びの深まり」(66.7%)、「内容と受講方法の親和性(相性・なじみやすさ)」(62.2%)である。続いて、「講師の進め方」(42.2%)、「受講者とのコミュニケーション」(41.1%)、「集中できる環境」(40.0%)である。

(6) 学びや受講者同士のつながりの活用について

本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えかお書きください。(自由記述)

対面型研修受講者(n=239)から231、オンライン型研修受講者(n=184)から80の回答があった。コミュニケーションやグループワーク等に関するマイナスの点や課題についての回答があったため、それぞれ抜粋して以下に示す(記述の内容を要約し、多い順に提示 カッコ内は回答数)。

○対面 (1)

- ・他の受講者とのつながりやコミュニケーションはあまりなかった。

○オンライン (8)

- ・他の受講者とのつながり、関わりがもてなかった。聴講するのみだった。(5)
- ・グループワークにおいて、ワークの内容が行えなかった。
- ・深い話合いになりにくい。
- ・マイクの不具合。

第3章 調査の分析・考察

1 調査の分析と考察

(1) 受講者の基本属性について

一部の調査対象研修は、「生徒」や「学生」、「地域で～に携わっている方」等、対象者の所属や年齢を指定しているため、今回の結果から所属や年齢による受講方法の選択の特徴は見いだせない。【図 2-1、図 2-2、図 3-1、図 3-2】

(2) 学習環境について

多くの受講者は、普段からインターネットを使っていることが分かるが、対面での受講者の半数近くがリアルタイムでのオンライン受講に慣れていないと推察できる。【図 4、図 5】

さらに、学習環境に関してオンライン型の受講者から得られた 108 の回答について分析を行った。

※【表 2】の No.1 と 2、7 と 8 については連続研修のため、全ての研修終了後の回答について、午前中のみ受講者については、午前の研修終了後の回答について分析している。

ア オンライン型研修受講者の Zoom のスキルと受講のしやすさの関係

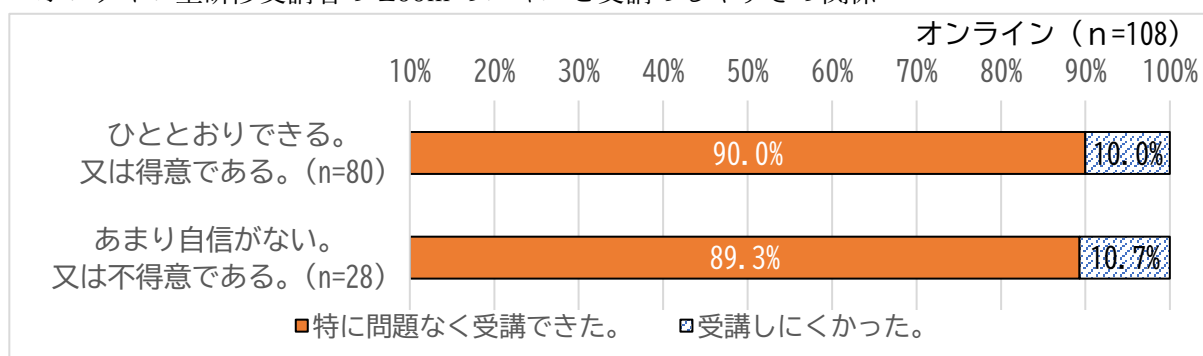


図 10 Zoom のスキルと受講のしやすさの関係 (オンライン)

・受講者の Zoom のスキルと受講のしやすさについては、大きな差は見られなかった。

イ オンライン型研修受講者の研修に使用した端末と受講のしやすさの関係

研修受講時、配信画面の視聴に使用した端末と受講のしやすさについて下表にまとめた。

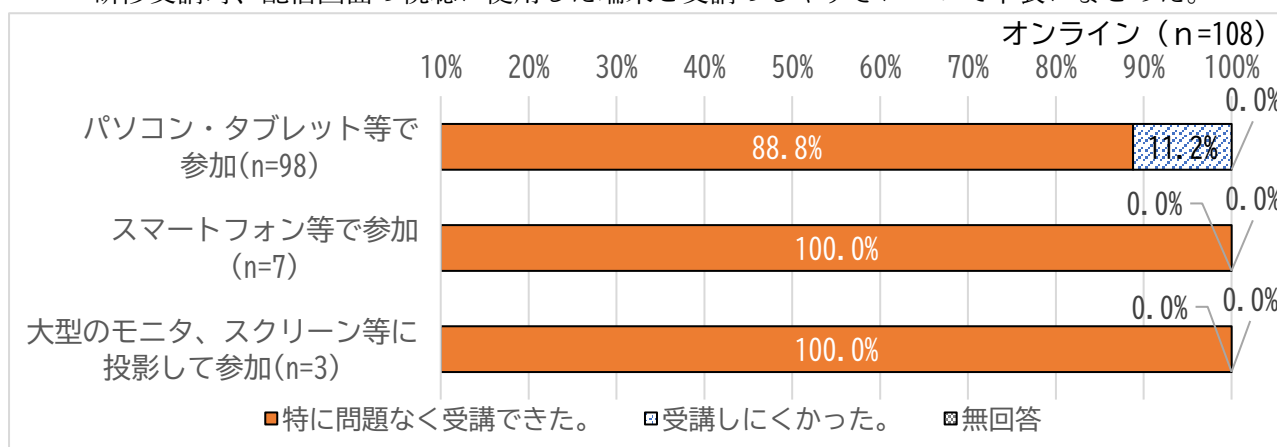


図 11 研修に使用した端末と受講のしやすさの関係 (オンライン)

・パソコン・タブレット等を使用しての受講で、11.2%が受講しにくかったと回答している。少数であるがスマートフォン等を使用した人がおり、特に問題なく受講できたと回答している。

ウ オンライン型研修の受講のしにくさの理由

受講しにくかった理由は次のとおりである。(複数回答 その他の記述については、内容を要約して提示)

表4 受講のしにくさの理由 (n=11)

	ひととおりできる。又は得意である。(n=8)	あまり自信がない。又は不得意である。(n=3)
提示資料が見にくかった。	0	1
音声聞き取りにくかった。	4	2
機器等のトラブルがあった。	1	1
その他	6	2
→その他の記述	・ブレイクアウトルームに入るとスライドが見えなくなり、何をしようかわからなくなった。 ・グループワークがやりにくかった。 ・ワークのところで、実施内容がわからない場面があった。 ・会場で参加者同士の交流が図れたのか。	・ブレイクアウトルームに入るタイミングで、講師の説明が聞けなかった。

- ・特に、音声の聞き取りにくさ、ブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさ、グループワークのしにくさ等、オンラインならではの理由が挙げられている。

学習環境に関する分析結果から、オンライン型研修の受講者の受講のしやすさと Zoom のスキルとの関連は見られなかったが、音声の聞き取りにくさやブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさ、グループワークのしにくさなどがあることが分かった。

オンライン型研修については、今後、受講者の Zoom のスキルに配慮した研修計画・運営により、参加しやすくなると考えられる。オンライン型研修の受講のしにくさについては、グループワークの工夫やブレイクアウトルームのタイミング等、研修を提供する側が配慮することで解消できる部分もあると考える。

次に、6月20日にハイフレックス形式で実施した「家庭教育オピニオンリーダー研修」・「家庭教育支援プログラム指導者研修」について、受講者が自由に受講方法を選択できるハイフレックス形式で実施したこと、オンラインと対面の受講者数の偏りが少なかったことで、同一の研修での比較がしやすいと考え、回答結果を取り出して分析を行った。

エ Zoom のスキルと受講方法の選択の関係

Zoom のスキルについて「あまり自信がない。又は不得意である。」を選択した人と「ひととおりできる。又は得意である。」を選択した人が、それぞれどの受講方法を選択しているかまとめた。

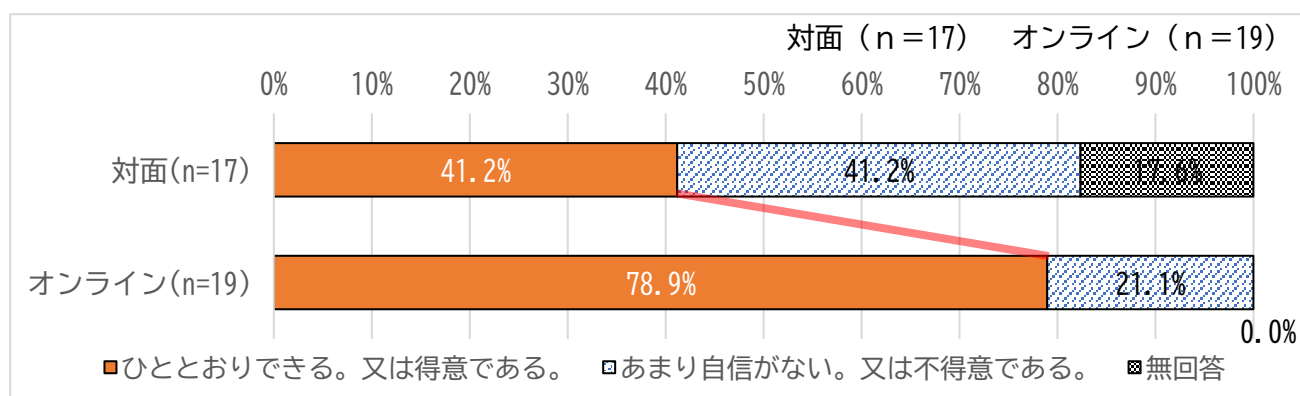


図12 Zoom のスキルと受講方法の関係

- ・オンライン型研修で受講した人は、「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した割合が78.9%。
- ・Zoomのスキルが高い受講者はオンライン型研修で、そうでない受講者は対面型研修で受講する傾向があることが分かる。

「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した人で対面での受講を選択した理由、「あまり自信がない。又は不得意である。」と回答した人でオンライン型研修での受講を選択した理由は次のとおりである。

○「ひととおりできる。又は得意である。」と回答した人で対面型研修での受講を選択

- ・直接話を聞いたかったから。(2)
- ・他の受講生の方々とコミュニケーションを取りたかったため。(2)
- ・初回なので対面で参加したかった。時間に余裕があった。
- ・現地で受けたかったから。 ・安心する

○「あまり自信がない。又は不得意である。」と回答した人でオンライン型研修での受講を選択

- ・場所の移動時間がかからないため。 ・遠方だから。
- ・近く。 ・勤務地の近くのため。

(イ) 受講者の受講方法による受講のしやすさ

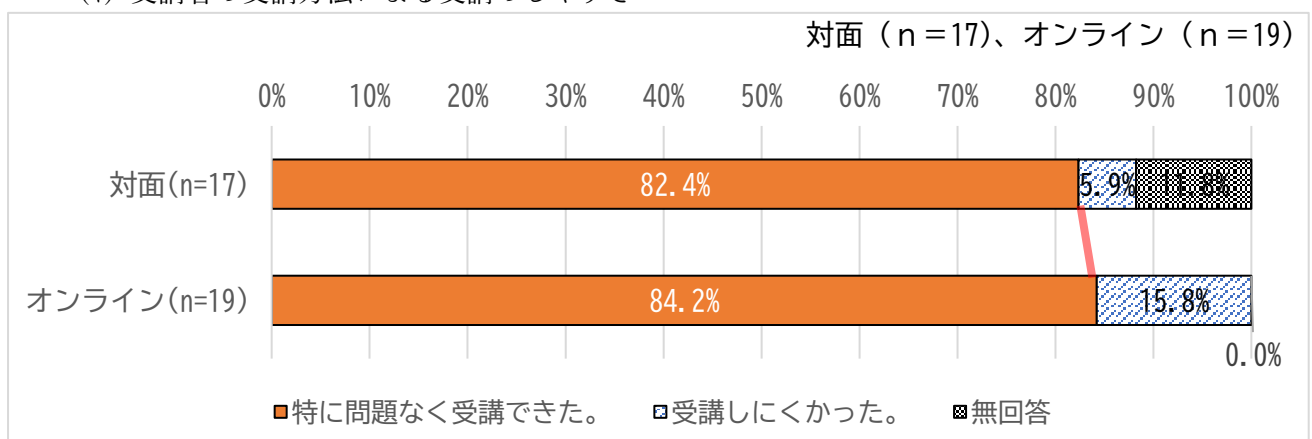


図13 受講方法による受講のしやすさ

- ・対面型研修とオンライン型研修とで、大きな差は見られなかった。

オ 受講者の居住地から会場までの距離と受講方法の関係

受講会場（当センター）から受講者の居住地の市役所・町役場までの距離と受講方法を選択した理由の関係を【表5】にまとめた。

表5 居住地から会場までの距離と受講方法

会場までの距離(km)	対面受講	オンライン受講	対面受講の主な理由	オンライン受講の主な理由
10km 未満	1	1	・ <u>直接話を聞きたかった</u> から	・ 場所を選ばず受講できる
10km～20km 未満	2	1	・ <u>会場や参加者の雰囲気を知りたかった</u> から	・ 普段活用しているため
20km～30km 未満	3	6	・ 初回なので対面で参加したかった ・ 安心する ・ 現地で受けたかったから	・ <u>会場まで行くのにやや時間がかかる</u> エリアのため ・ 参加しやすい ・ 近く ・ 勤務地の近くのため ・ <u>会場までの移動時間の短縮</u> のため
30km～40km 未満	6	4	・ 最初の受講だったため ・ <u>他の受講生の方々とコミュニケーションを取りたかった</u> ため ・ やる気スイッチを入れるため ・ 集中して参加できる ・ <u>雰囲気</u> ・ <u>Zoomを使う自信がなかった</u> ため ・ <u>オンラインが難しい</u>	・ <u>会場が遠方</u> のため ・ <u>会場までの移動が面倒</u> だったため ・ <u>遠い</u>
40km～50km 未満	1	2	・ <u>受講者とのコミュニケーション</u>	・ <u>直前まで仕事があり現地に行けなかった</u> から ・ <u>研修が終わり次第、仕事にすぐに参加できるように職場で受講</u>
50km 以上	2	5	・ <u>直接講話を聞きたかった</u> から	・ <u>遠方だから</u> ・ <u>場所の移動時間がかからない</u> ため ・ <u>仕事がたてこんでいた</u> ため ・ <u>午後別件があった</u> ため ・ <u>移動時間がない</u> ので
無回答	2	0		

対面 (n=17)、オンライン (n=19)

○対面型研修

- ・ 対面型研修での受講を選択した人は、距離に関わらず、受講者とのコミュニケーションが取りたい、直接話を聞きたい、場の雰囲気を知りたいなどの理由があった。
- ・ 距離が 30km～40km 未満の受講者で、Zoom（オンライン）での受講が難しいという理由から対面型研修での受講を選択した人がいた。

○オンライン型研修

- ・ 距離が 20km を超えると、会場が遠いこと、移動に時間がかかることなどの理由が出てきた。

受講者同士や講師とのコミュニケーション、場の雰囲気を知ることが対面での受講理由になっていることが分かった。受講者同士や講師とのコミュニケーションを重視している場合は、移動の労力をかけても対面での受講を選択する場合があるのではないかと考えられる。

また、この回の研修の形態は「説明」及び「講話」だったため、主に聞くことが多い研修であった。そのため、研修内容と移動コストのバランスを考えてオンラインを選択した受講者が多いのではないかと考えられる。

移動距離が 20km 以内の場所に研修会場を設定することで、対面での受講がしやすくなると考えられる。

対面型受講者の中には、オンライン型での受講スキルが向上することにより、オンライン型研修を受講する人が増えると考えられる。

(3) 受講方法に関する受講者の意識の分析から

「受講方法（対面型研修・オンライン型研修）に関する受講者の意識」の記述から、対面型研修は、受講者同士や講師とのコミュニケーションが取りやすく、他の受講者の前向きな雰囲気・講師の熱量等を感じることで意欲の向上につながるというメリットが考えられる。

一方で、研修会場まで移動するのに時間や費用がかかることや、交通手段の手配が必要になることが対面型研修のデメリットだと考えられる。また、対面型により見知らぬ人と同じ空間にいることで生じる緊張感もデメリットとなる可能性がある。

オンライン型研修については、研修会場までの移動の必要がなく、場所を選ばず受講ができるというメリットがある。また、受講者は落ち着く環境で受講することができる。

一方で、受講者同士や講師とのコミュニケーションが取りにくく、孤立感も感じやすい。集中力の維持やリアルタイムでのフィードバックの難しさもある。また、機器の操作が必要なことや接続のトラブルが発生することがあることから、受講者に一定のスキルが求められる。

対面型研修とオンライン型研修の利点と課題を下表にまとめた。

表6 対面型研修とオンライン型研修の利点と課題

	利 点	課 題
対面型 研修	・コミュニケーションが取りやすく、つながりづくりがしやすい。 ・他の受講者の前向きな雰囲気や講師の熱量等を感じやすい。 ・研修の満足度、受講者にとっての学習効果が高い。	・移動にコスト（時間・距離・労力等）がかかる。
オンライン型 研修	・移動にコスト（時間・距離・労力等）がかからない。 ・受講しやすい環境・場所で受講できる（受講のしやすさ）。	・コミュニケーションが取りにくく、つながりづくりがしにくい。 ・会場の雰囲気や受講者の様子を感じにくい。 ・スキルが無いと受講しにくい。

コミュニケーションについては、対面型研修であれば、休憩中に座席の近い受講者同士やグループワークをした受講者同士で話をしたり、講師に直接質問をしたりする姿が見られるが、オンライン型研修だとそれが容易ではない。そのため、コミュニケーションの取りにくさ、つながりづくりのしにくさを感じるのだと考えられる。

(4) 学習効果について

「関心・意欲」「知識・理解」の項目については、対面型研修での受講の方が高い効果が得られるが、肯定的な回答を比較すると対面型もオンライン型も同等の効果が得られることが分かる。【図 7-1、図 7-2】

受講者は、対面型研修の方が研修中にコミュニケーションを十分に図ることができたと感じていることから、社会教育において重要なつながりづくりがしやすいと考えられる。対面型の研修であってもコミュニケーションが取れなかったと感じる受講者がいたため、受講者が主体的に他の受講者

や講師と関わりをつくることができる環境を準備する必要がある。【図 7-4】

「スキル」については、対面型の研修が多く、オンラインについては調査対象となる研修が少なかったため、比較ができなかったが、オンラインで受講者からは、肯定的な回答を得ている。【図 7-3】

「スキル」について調査した2つの研修は、どちらも対面型研修の「地域学校協働活動推進員養成研修」のため、オンライン型の受講者はライフアップセミナー受講者である。7月19日は、ファシリテーションスキルを高めるための講話・演習が行われ、ファシリテーションの機能や役割、コミュニケーションの技術について確認するなど、実際の活動につながる内容であった。8月29日は、コーディネートの手法について講話・演習が行われ、統括的な立場で推進員をされている方を講師に、具体的な事例や取組の実際を聞いた上で、実施可能なコーディネートを考える演習が行われた。オンラインでの受講者にとっても、ファシリテーションやコーディネートを進める上でのポイントについて納得感のある学びとなった、又は受講の目的に合致する学びだったのではないかと考えられる。

移動コスト等の負担と学習効果のバランスを考えると、対面とオンラインの併用がよいと考えられる。特に、回数の多い連続研修においては、各回の内容・ねらいに応じて開催方法を変えることで、受講者の負担を減らすことができると考える。【図 7-1、図 7-2、図 7-3、図 7-4、表 5、表 6】

(5) 受講方法による受講者の指向（評価）について

調査の対象となった研修について肯定的な回答を見ると、対面型研修でもオンライン型研修でも、受講者はおおむね満足できることが分かった。【図 8】「満足できる研修となった（そう思う）」と回答した要因を比較すると、「学びの深まり」「研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）」の回答が多く、対面型とオンライン型の受講者で同じくらいの割合だった。「講師の進め方」「受講者とのコミュニケーション」の割合を見ると対面型の受講者の方が数値が高く、「集中できる環境」「モチベーション」はオンライン型の受講者方が数値が高かった。【図 9】

さらに、「講話」「説明」「講話・事例発表」「講話・演習」の4つの受講形態について比較した。「講話」「説明」「講話・事例発表」は、主に聞くことの多い内容であるが、内容によってペアトークやグループでのふりかえり等を行うことがある。「講話・演習」は、個人作業やペアトーク、グループワーク等が多く入る。

ア 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係の分析結果

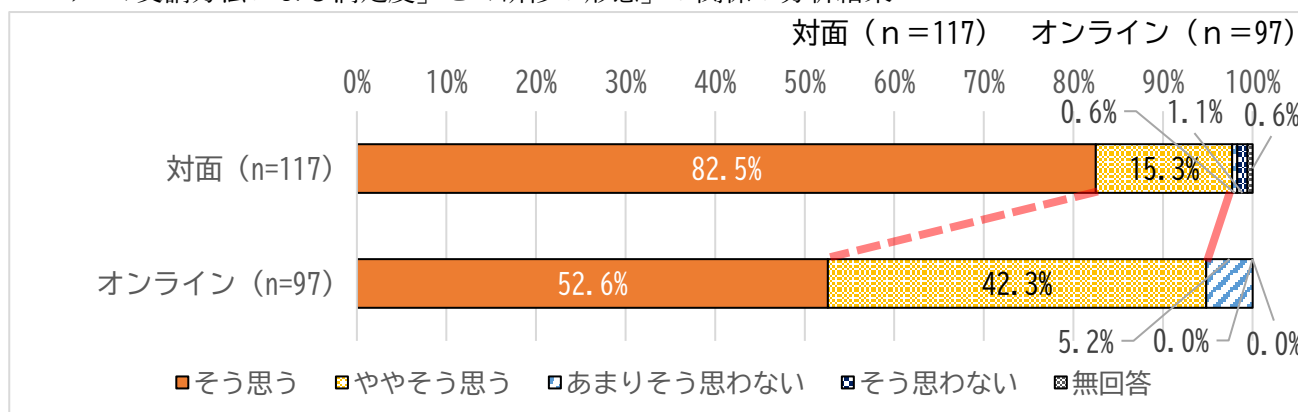


図 14-1 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話）

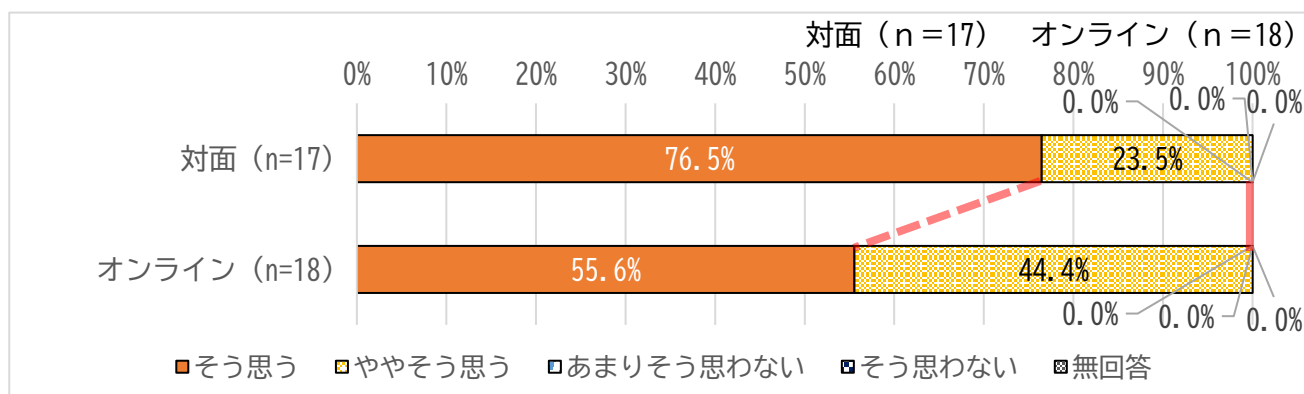


図 14-2 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（説明）

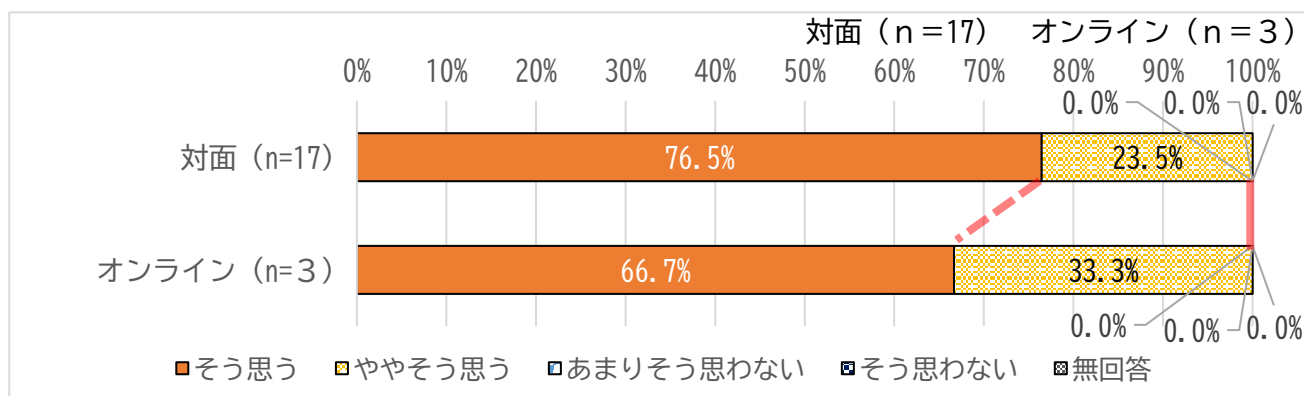


図 14-3 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話・事例発表）

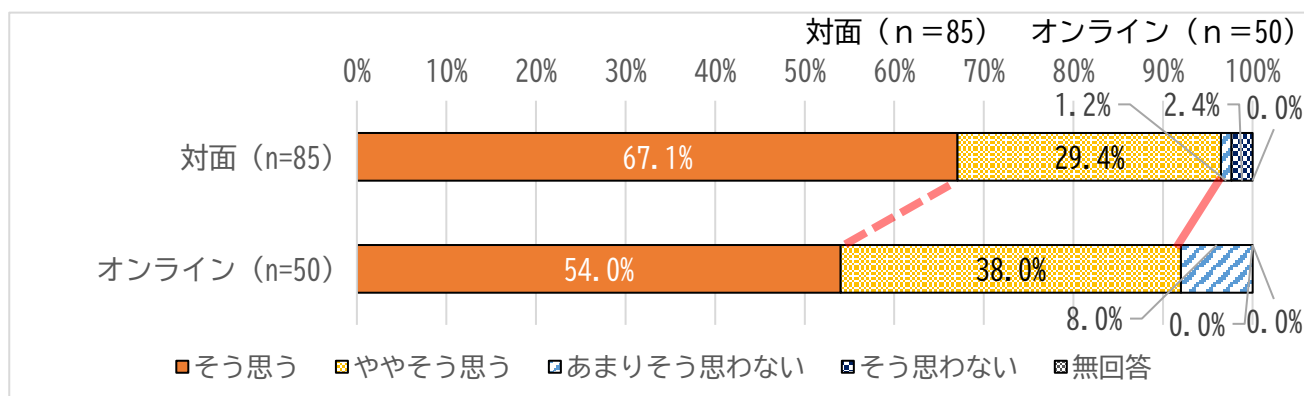


図 14-4 「受講方法による満足度」と「研修の形態」の関係（講話・演習）

- ・講話・事例発表については、オンライン受講者のサンプル数が少ないため比較は難しいため、結果を提示するにとどめる。
- ・講話、説明、講話・演習について「そう思う」と回答した割合は、対面型研修の方が高く、講話は 29.9 ポイント、説明は 20.9 ポイント、講話・演習は 13.1 ポイントの差があった。
- ・肯定的な回答を比較すると、対面型研修もオンライン型研修も大きな差は見られない。

対面型の方がグループワークがしやすく、リアルタイムで直接的なやり取りができることから、学びの深まりや研修の満足度につながると考えられる。

オンライン型の研修でも、研修方法等を改善することで、満足度を上げることができると考えられる。そのために、「講師の進め方」や「受講者とのコミュニケーション」について工夫する必要がある。

第4章 まとめ

大分大学大学院教育学研究科（教職大学院） 教授 清國 祐二氏から多くの御指導と御助言をいただきながら本調査研究を進めてきた。調査の分析・考察の結果について、清國氏から次のような助言をいただいた。

- ・社会教育ではつながりづくりが重要視され、対面の方が優位だとみなされる傾向にある。活動が活発になったり、地域が活性化したり、地域の課題がみんなの協力によって解決していったりすることを地域のウェルビーイングと考えると、学びの成果に付随するつながりは重要である。そう受け止めれば力点は「つながりづくり」に置かれ、対面がクローズアップされる。
- ・一方で、個人の学びも重要であり、それにはオンラインの利便性が大きい。研修効果について、社会教育ではつながりづくりが着目されるが、実際には内容の定着があつてこそであるため、個人が知識的・技能的に豊かになることには大きな意味がある。
- ・これからの生涯学習・社会教育には、教育基本法に基づき、個人が要求する課題（個人の要望）と社会が必要とする課題（社会の要請）をバランス良く提供していくことが求められる。
- ・学習者の学ぶ目的を達成するために、どのような内容と方法を組み合わせるのがよいのかについて、ますます敏感になることが重要である。
- ・Society5.0 の時代において、アナログ的な感覚を失うことなく、デジタルを活用する必要がある。

第1章で、「オンラインでも対面での研修と同等の学習効果が得られるか」、「社会教育において重要な『人のつながりづくり』についての効果に違いはあるか」ということを課題として述べたが、清國氏から、『対面の方が優れている』という前提に偏ると、対面が伸びていかない。」という御指摘をいただいた。研修を計画するときに、対面型研修だからつながりがつくれると考えるのではなく、受講者が主体的に他の受講者や講師と関わりをつくる環境づくりや、受講者のもっている知識や経験をコミュニケーションによって引き出すようなはたらきかけをする必要があると考える。

対面型研修とオンライン型研修の学習効果等の比較及び清國氏からいただいた視点を基に、研修プログラムを計画・実施するときに以下のことを考慮することで、よりよい学びの提供ができるのではないかと考える。

まず、研修の受講方法を検討する際の視点を以下にまとめた。

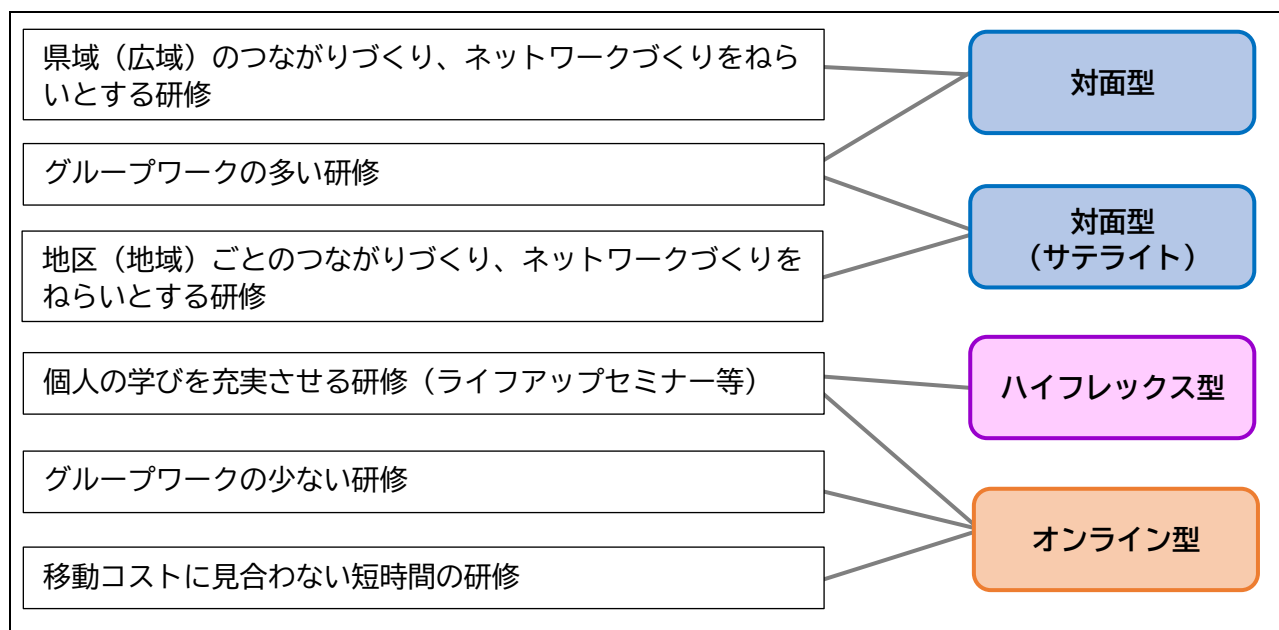


図15 受講方法検討の視点

次に、今後の研修の更なる充実に向けた取組として、以下の4点を示す。

受講者の負担軽減と学習効果のバランスを考慮した研修の工夫

① 対面型研修とオンライン型研修を組み合わせた研修プログラムの企画

- ・回数の多い連続研修の場合は、対面とオンラインを組み合わせることで、特に、会場までの移動にかかる受講者の負担を軽減させる。
- ・つながりづくり、ネットワークづくりをねらいとする研修については、対面で研修を行うようにする。

② 受講しやすく、満足度が高まるオンライン型研修の計画

- ・オンライン型研修受講の簡易マニュアルを作成し受講者に配付したり、受講者のオンライン会議システムの事前接続テストを実施したりすることで、オンライン型研修に対するハードルを下げる。
- ・見え方や音声の事前確認、受講者への資料の事前配付をすることで、資料の見にくさや音声の聞きにくさを解消する。
- ・チャット機能を活用したリアルタイムでの質問・意見の受付や、ブレイクアウトルームでの時間の提示などを行い、オンライン型の受講者が受講しやすい研修の進め方にする。
- ・受講者同士のコミュニケーションが図れる環境を準備する。

③ ハイフレックス型研修の充実

- ・対面型・オンライン型のどちらも充実した研修となるよう、研修内容、運営を工夫する。
- ・事前に、対面型・オンライン型両方の受講者がいることや、グループワーク等（回数、時間、グループの人数等）について講師と打合せを行い、運営計画に明記する。
- ・グループワーク等に入る前に、受講者に進め方や時間を伝えることで、ブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさを解消し、対面型・オンライン型どちらの受講者も同じようにグループワーク等を進められるようにする。
- ・オンライン受講者の様子を講師が見られるようにすることで、講師とオンライン受講者のコミュニケーションを取りやすくする。（通信環境、受講人数によっては、オンライン受講者の画面をオフにしなければならない場合がある。）

④ サテライト会場の活用

- ・移動の負担を軽減させた対面型研修として、サテライト会場を設ける。
- ・地区（地域）ごとのつながりづくり、ネットワークづくりをねらいとする研修については、積極的にサテライト会場の設置を検討する。

これらのことから、当センター生涯学習部では、次年度の研修を次のように計画した。

表7 令和7年度栃木県総合教育センター生涯学習部の研修と開催方法（実施形態）等一覧

No	研修名	総日数	主研修の開催方法（実施形態）			備考
			対面	オンライン	ハイフレックス ※1	
1	女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）	6	5	0	1	
2	家庭教育オピニオンリーダー研修	6	5	1	0	対面のうち、サテライト1
3	家庭教育支援プログラム指導者研修	5	4	1	0	対面のうち、サテライト1
4	地域へ飛び出せ！ボランティア実践セミナー	5	5	0	0	
5	コミュニティ・スクール推進研修（小・中）	3	2	1	0	
6	コミュニティ・スクール推進研修（高・特）	3	2	1	0	
7	地域学校協働活動推進員養成研修	4	3	1	0	
8	地域学校協働活動推進員パワーアップ講座	2	2	0	0	
9	地域づくりスキルアップセミナーⅠ	1	1	0	0	
10	地域づくりスキルアップセミナーⅡ	2	2	0	0	
11	家庭教育・子育て支援課題解決セミナー	1	0	0	1	
12	放課後活動指導者研修	3	3	0	0	対面のうち、サテライト1
13	生涯学習・社会教育関係職員研修	4	2	2	0	
14	人権教育指導者専門研修	5	4	1	0	
15	生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座	2	1	1	0	
16	公民館職員スキルアップセミナー	1	1	0	0	
17	新任地域連携教員研修	1	0	1	0	オンライン半日、サテライト半日
18	地域連携教員研修	1	1	0	0	
19	16ミリ映写機技術指導者研修	1	1	0	0	
	合 計	56	44	10	2	

研修の統合、拡充等の見直しも図ったため、本年度の研修と単純には比較できないが、例えば、3の家庭教育支援プログラム指導者研修では、主に講話中心の研修をハイフレックスからオンラインのみの開催とした。また、サテライト会場での開催を設定することで受講しやすくなるとともに、学び直しをする研修修了者と研修受講者がつながりを作ることで、今後、新たな活動に取り組む契機になると考えた。

今後も、質問紙調査から明らかになった視点に沿って研修を見直し、内容の充実や方法の改善等を進め、研修に反映していくことで、『社会教育』を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりの充実につなげていきたい。

最後に、本調査研究への御指導と御助言をいただいた清國氏に、心から感謝を申し上げ、調査研究の報告とさせていただきます。

参考・引用文献、参考資料

〈参考・引用文献〉

○教育基本法 文部科学省

○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）
平成30年12月21日 中央教育審議会

○生涯学習支援論 清國祐二 執筆・編集代表 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 著

○令和4・5年度 社会教育活動の実態に関する基本調査事業
社会教育施設におけるICT活用と今後の研修等の在り方に関する調査研究
文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

○栃木県重点戦略とちぎ未来創造プラン 2021-2025 栃木県

○教育振興基本計画 2025ーとちぎ教育ビジョンー 栃木県教育委員会

○栃木県生涯学習推進計画（六期計画） 栃木県

○社会教育行政の基本・実務ガイド『社会教育行政職員のための「虎の巻」』
井上昌幸 著 一般財団法人日本青年館「社会教育」編集部

〈参考資料〉
質問紙調査・質問紙1

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

栃木県総合教育センター生涯学習部

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的の御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「家庭教育オピニオンリーダー研修(第1回)」「家庭教育支援プログラム指導者研修(第1回)」に関するアンケート

1. 説明「本県の家庭教育支援について」、「参加型学習と家庭教育支援プログラム(思春期版も含む)」とは、について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質問	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 家庭教育支援のねらいや本県の家庭教育支援の内容、特徴について、知ることができましたか。	4	3	2	1
② 家庭教育支援プログラムのねらいや効果、及びその概要について、知ることができましたか。	4	3	2	1
③ 他の受講者との意見交流、情報交換等により、家庭教育について「学ぶ機会」を提供しようとする取組への意欲が高まりましたか。	4	3	2	1
④ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか(休憩中も含む)。	4	3	2	1

(2) 研修の満足度

質問	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① あなたが選択した学習方法(対面・オンライン)によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1
② それは、何によるものですか。下記ア～エの当てはまるものを全て選択してください。				
ア 研修の内容と受講方法の親和性(相性・なじみやすさ)	イ 学びの深まり			
ウ 講師の進め方	オ 講師とのコミュニケーション			
カ 受講者とのコミュニケーション	ク 達成感			
ケ 安心感	コ 労力(移動時間・費用等)に見合った学習成果			
サ その他〔 〕				

2. 講話「家庭教育の現状と課題、及びその方策について」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質問	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① 子育て家庭の現状や課題、及びその支援方策などについて、理解を深めることができましたか。	4	3	2	1
② 他の受講者との意見交流、情報交換等により、子育て家庭への支援者として活動しようとする意欲が高まりましたか。	4	3	2	1
③ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか(休憩中も含む)。	4	3	2	1

(2) 研修の満足度

質問	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
① あなたが選択した学習方法(対面・オンライン)によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1
② それは、何によるものですか。下記ア～エの当てはまるものを全て選択してください。				
ア 研修の内容と受講方法の親和性(相性・なじみやすさ)	イ 学びの深まり			
ウ 講師の進め方	ウ 講師の進め方			
カ 受講者とのコミュニケーション	カ 受講者とのコミュニケーション			
ケ 安心感	コ 労力(移動時間・費用等)に見合った学習成果			
サ その他〔 〕				

質問紙調査・質問紙2

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

栃木県総合教育センター生涯学習部

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を知るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「地域学校協働活動推進員養成研修 第1回」に関するアンケート

1. 課題「学校と地域の連携・協働が広がる未来」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質 問	そう思う	ややそう思う	ほとんど思わない	思わない
① 地域と学校との連携・協働について理解を深めることができましたか。	4	3	2	1
② 他の受講者との意見交流、情報交換等により、地域と学校との連携・協働に関わろうとする意欲が高まりましたか。	4	3	2	1
③ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか（休憩中も含む）。	4	3	2	1

(2) 研修の満足度

質 問	そう思う	ややそう思う	ほとんど思わない	思わない
① 対面による学習方法により、満足できる研修受講になりましたか。	4	3	2	1
② それは、何によるものですか。下記ア～サの当てはまるものを全てに○を付けてください。				
ア 研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）	イ 学びの深まり			
ウ 講師の進め方	エ モチベーション	オ 講師とのコミュニケーション		
カ 受講者とのコミュニケーション	キ 集中できる環境	ク 達成感		
ケ 安心感	コ 労力（移動時間・費用等）に見合った学習成果			
サ その他（ ）				

2. 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えをお書きください。

3. 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

〈対面型〉

〈オンライン型〉

4. 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()		
御所風等	ア 行政職員 イ 教職員 エ 学生 オ その他 ()	ウ 地域活動実践者 (NPO 職員等も含む)	
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上		
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることはない。		
Zoom のスキル	ア ひととおりできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。		

5. 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

・オンライン受講者は、★マークにも御回答ください。

お住まいの市町	()		
御所風等	ア 行政職員 イ 教職員 エ 学生 オ その他 ()	ウ 地域活動実践者 (NPO 職員等も含む)	
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上		
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることはない。		
Zoom のスキル	ア ひととおりできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。		
本日の受講方法 (理由もお書きください。)	ア 対面 イ オンライン (理由)		
本日の受講のしやすさ	ア 特に問題なく受講できた。 イ 受講しにくかった。(以下から、理由を選択してください。複数回答可) ウ 提示資料が見えなかった。 エ 音声が届き取りにくかった。 オ 機器等のトラブルがあった。 カ その他 ()		
★本日の研修に使用した端末について	ア パソコン・タブレット等で参加 イ スマートフォン等で参加 ウ 大型のモニター、スクリーン等に投影して参加		
★休憩中のブレイクアウトルームの利用	ア 利用した イ 利用しなかった		

御協力ありがとうございました。

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査 栃木県総合教育センター生涯学習部

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「コミュニティ・スクール推進研修 第1回」に関するアンケート

1 講話「コミュニティ・スクールって何?」～基礎から学ぼう CS の世界～について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	全然
① コミュニティ・スクールについて理解を深めることができましたか。	4	3	2	1	1
② 他の受講者との意見交流、情報交換等により、学校と地域の協働を進めていく意欲が高まりましたか。	4	3	2	1	1
③ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか（休憩中も含む）。	4	3	2	1	1

(2) 研修の満足度

質問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	全然
① 本日の学習方法（対面・オンライン）によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1	1
② それは、何によるものですか。下記A～シの当てはまるもの全てに○を付けてください。					
A 研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）					
ウ 講師の進め方					
カ 受講者とのコミュニケーション					
ケ 安心感					
サ その他（ ）					

2 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えかお書きください。

3 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

〈対面型〉

〈オンライン型〉

4 受講者の基本属性・学習環境
・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()
御所廣等	ア 行政職員 イ 教職員 ウ 地域活動実践者（NPO 職員等も含む） エ 学生 オ その他（ ）
年 代	10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代以上
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 ア ひとりでできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。
Zoom のスキル	ア ひとりでできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査 栃木県総合教育センター生涯学習部

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「女性教育指導者研修 第3回」に関するアンケート

1 講話「女性教育の視点を生かして地域で活躍するリーダーに求められること」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	全然
① 女性の視点を生かして地域で活躍するリーダーに必要なことについて理解することができましたか。	4	3	2	1	1
② 今後の活動への意欲を高めることができましたか。	4	3	2	1	1
③ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか（休憩中も含む）。	4	3	2	1	1

(2) 研修の満足度

質問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	全然
① 本日の学習方法（対面・オンライン）によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1	1
② それは、何によるものですか。下記A～シの当てはまるもの全てに○を付けてください。					
A 研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）					
ウ 講師の進め方					
カ 受講者とのコミュニケーション					
ケ 安心感					
サ その他（ ）					

2 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えかお書きください。

3 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

〈対面型〉

〈オンライン型〉

4 受講者の基本属性・学習環境
・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()
御所廣等	ア 行政職員 イ 教職員 ウ 地域活動実践者（NPO 職員等も含む） エ 学生 オ その他（ ）
年 代	10 代・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代以上
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 ア ひとりでできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。
Zoom のスキル	ア ひとりでできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。

(1) 研修の内容

(2) 研修の満足度

本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えがお願いください。

《封面》

（オンライン型）

4 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

製品力あり感と云いました。

1) 研修の内容

2) 研修の満足度

午後の講話「地域での活動に求められるもの」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

1) 研修の内容

2) 研修の満足度

② それは、何によるものですか。下記ア～サの当てはまるもの全てに○を付けてください。

—

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座 第1回」に関するアンケート

1 講話・演習について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 講話「説得力があり、分かりやすいポンチ絵の作り方について」について

質 問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	思いやらない
① 説得力があり、分かりやすいポンチ絵の作り方について理解することができたか。	4	3	2	1	1

(2) 研修の満足度

質 問	とても思う	やや思う	どちらか	どちらか	思いやらない
① 本日の学習方法（対面・オンライン）によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1	1

② それは、何によるものですか。下記ア～サの当てはまるもの全てに○を付けてください。

ア 研修の内容と受講方法の親和性（相性・なじみやすさ）	イ 学びの深まり
ウ 講師の進め方	エ モチベーション
カ 受講者とのコミュニケーション	キ 集中できる環境
ケ 安心感	コ 努力（移動時間・費用等）に見合った学習成果
サ その他（ ）	

2 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えをお書きください。

3 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

〈対面型〉

〈オンライン型〉

4 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()
御所属等	ア 行政職員 イ 教職員 ウ 地域活動実践者 (NPO職員等も含む) エ 学生 オ その他 ()
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがない。
Zoomのスキル	ア ひととおりできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。
本日の受講方法 (理由もお書きください。)	ア 対面 (理由) イ オンライン
本日の受講のしやすさ	ア 特に問題なく受講できた。 イ 受講しにくかった。(以下から、理由を選択してください。複数回答可) ウ 提示資料が見にくかった。 エ 音声が届き取りにくかった。 オ 機器等のトラブルがあった。 カ その他 ()
★本日の研修に使用した端末について	ア パソコン・タブレット等で参加 イ スマートフォン等で参加 ウ 大型のモニター、スクリーン等に投影して参加
★休憩中のプレイバックアートルームの利用	ア 利用した イ 利用しなかった

御協力ありがとうございました。

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

栃木県社会教育センター生涯学習部

令和6(2024)年度「放課後活動指導者研修 第2回」に関するアンケート

1. 講話・演習「子どもの発達に合わせた大人の関わり方」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお書きください。

(1) 研修の内容

質 問	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	ややそう思わない	そう思わない
① 子どもの発達に応じた大人の関わり方について理解を深めることができましたか。	4	3	2	1	1
② 他の受講者との意見交流、情報交換等により、子どもへの関わり方に対する意識が高まりましたか。	4	3	2	1	1
③ 受講者同士でのコミュニケーションは十分に取れましたか（休憩中も含む）。	4	3	2	1	1

(2) 研修の満足度

質 問	むしろ思う	やや思う	どちらでもない	やや思わない	そう思わない
① 本日の学習方法（対面・オンライン）によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1	1
② それは、何によるものですか。下記ア～サの当てはまるものを全てに○を付けてください。					
ア 研修の内容と受講方法の相和性（相性・なじみやすさ）	イ 学びの深まり				
ウ 講師の進め方	エ モチベーション	オ 講師とのコミュニケーション			
カ 受講者とのコミュニケーション	キ 集中できる環境	ク 達成感			
ケ 安心感	コ 努力（移動時間・費用等）に見合った学習成果	)			
サ その他（ ）					

2. 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えが書けますか。

3. 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

(対面型)

(オンライン型)

4. 受講者の基本属性・学習環境・選択状況のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()	ア 行政職員	イ 教職員	ウ 地域活動実践者（NPO職員等も含む）
勤務先等	エ 学生	オ その他（ ）		
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上			
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を観たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を観たり、情報を検索したりすることはない。			
Zoomのスキル	ア ひとりでできる。又は得意である。 イ あまり目値がない。又は不得意である。			

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を知るために、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。

誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「地域学校協働活動推進員養成研修 第4回」に関するアンケート

1 講師「子どもの成長のために地域にできることは」とは、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質問	とても思う	やや思う	どちらでもない	思う	思わない
① 子どもを取り巻く現状について理解を深めることができましたか。	4	3	2	1	
② 子どもの成長のために地域で取り組めることについて考えることができましたか。	4	3	2	1	

(2) 研修の満足度

質問	とても思う	やや思う	どちらでもない	思う	思わない
① 対面による学習方法により、満足できる研修受講になりましたか。	4	3	2	1	
② それは、何によるものですか。下記A～サの当てはまるものを全てに○を付けてください。					
A 研修の内容と受講方法の相和性（相性・なじみやすさ）	イ 学びの深まり				
ウ 講師の進め方	エ モチベーション				
カ 受講者とのコミュニケーション	キ 集中できる環境				
ケ 安心感	コ 努力（移動時間・費用等）に見合った学習成果				
サ その他（ ）					

2 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えが書けますか。

3 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが実感していることをお書きください。

(対面型)

(オンライン型)

4 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()			
御所属等	行政職員 E 学生	教職員 オ その他 ()	地域活動実践者 (NPO職員等含む)	
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上			
インターネットスキル	A 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報を検索したりすることがある。 イ 普段、インターネットを使って動画を観たり、情報を検索したりすることはない。 ア ひととおりできる。又は得意である。 イ あまり自信がない。又は不得意である。			
Zoomのスキル				

御協力ありがとうございました。

「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果に関する調査

栃木県総合教育センター生涯学習部

本調査は、社会教育における「オンライン型」と「対面型」の研修による学習効果を測るために行うもので、調査結果を基に、今後の研修の実施形態の在り方等を考え検討していくことを目的としています。誠に恐縮ですが、調査の目的を御理解いただき、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6(2024)年度「家庭教育オピニオンリーダー研修(第5回)」に関するアンケート

1. 講話、事例発表「地域で子どもの成長を支えよう」について、次の質問に当てはまる番号、記号をお答えください。

(1) 研修の内容

質 問	そう思う	やや思う	結構思う	そう思わない
家庭教育支援者に求められることや、地域で家庭教育支援者が活動する際のポイントについて知ることができましたか。	4	3	2	1

(2) 研修の満足度

質 問	そう思う	やや思う	結構思う	そう思わない
① 本日の学習方法(対面・オンライン)によって、満足できる研修になりましたか。	4	3	2	1
② それは、何によるのですか。下記ア～サの当てはまるもの全てに○を付けてください。				
ア 研修の内容と受講方法の相和性(相性・なじみやすさ)				
ウ 講師の進め方				
エ モチベーション				
オ 講師とのコミュニケーション				
カ 受講者とのコミュニケーション				
キ 集中できる環境				
ク 達成感				
ケ 安心感				
コ 努力(移動時間・費用等)に見合った学習成果				
サ その他()				

2. 本日の学びや他の受講者とのつながりを今後の活動にどのように生かしていきたいとお考えをお書きください。

3. 対面での研修とオンラインでの研修について、受講のしやすさやメリット、課題等についてあなたが普段感じていることをお書きください。

〈対面型〉

〈オンライン型〉

4. 受講者の基本属性・学習環境

・選択肢のあるものについては、当てはまるものに○を付けてください。

お住まいの市町	()	ア 行政職員	イ 教職員	ウ 地域活動支援者 (NPO 職員等も含む)
御所属等		エ 学生	オ その他()	
年 代	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上			
インターネットスキル	ア 普段、インターネットを使って動画を見たり、情報検索したりすることがある。			
	イ 普段、インターネットを使って動画も見たり、情報を検索したりすることはない			
Zoom のスキル	ア ひとりでできる。又は得意である。			
	イ おまじり回値がない。又は不得意である。			

御協力ありがとうございました。

令和6（2024）年度
社会教育における「対面型」と「オンライン型」の
研修による学習効果に関する調査研究
報告書

令和7（2025）年3月
栃木県総合教育センター生涯学習部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7206 FAX 028-665-7219
URL <https://www.tochigi-edu.ed.jp/rainbow-net/>